

東京農業大学 研究データポリシー

東京農業大学（以下「本学」という。）は、時代及び社会ニーズの変化を見据え、建学の精神「人物を畑に還す」、教育研究の理念「実学主義」をかかげ、未来の地球、人類、社会に貢献する教育、研究活動を続けている。

本学は、社会実装につながる研究成果を生み出す大学として、教員個人研究費、学内研究資金（学内研究プロジェクト費）、科学研究費等競争的資金、企業等からの共同研究、受託研究、研究寄付金等により活発な研究活動を行っており、その過程で生み出される研究データは、論文などと同様に、学術や社会の発展に貢献する知の基盤の一つと成り得る。

そのため、研究成果の根拠となる研究データを適切に管理及び保存し、公開により利活用を促進することが、本学の研究機関としての社会的な責務を果たすことに繋がる。

よって、ここに、本学における研究データの管理、保存、公開の原則を以下のとおり定める。

（研究データの定義）

1. 東京農業大学研究データポリシー（以下、「本ポリシー」という。）において、「研究データ」とは、本学の研究に携わる研究者が研究活動の過程において、収集及び生成した情報をいう。

（研究データの管理）

2. 研究データの管理は、各々の研究の特性を踏まえ、本学の研究インテグリティの確保に関する規程に記す研究上のリスクに配慮して、行わなければならない。

ただし、日本国と国際的な研究倫理指針、あるいは研究開始時における契約等に特段の定めがある場合は、それぞれの定めを遵守する。

（研究者の責務）

3. 研究データを収集または生成した研究者は、研究データの管理を行う権利と責務を有し、その研究データを適切に管理及び保存し、また、可能な限り、研究データを公開して利活用を推進する。

（本学の責務）

4. 本学は、研究データを管理及び保存し、公開により利活用を支援する環境を整える。

（本ポリシーの見直し）

5. 本ポリシーは、社会情勢と学術環境の変化等に応じて、適宜、見直しを行うものとする。

以上